

## 2017年度学校 学校自己評価(小学校)の中間報告

2017年10月24日

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2017年度に実施した「学校自己評価」の中間報告を致します。

### ① 報告までの概要

学院に学校自己評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の検討や重点目標を定め、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は小学校の教職員(非常勤講師は除く)とし、1学期終了時に実施、8月に集計し、10月に評価委員会を開いた。

### ② 評価項目と 評価方法

評価項目

学校運営、教育内容、生活指導支援、教員研修・資質向上に4分類し、それぞれに評価項目と観点を設けて実施した。今年度は前年度の41項目から1項目減らし、質問内容を具体的に改正した項目もある。

評価方法 … 4段階の評価を行った。

A: よくあてはまる

B: ややあてはまる

C: あまりあてはまらない

D: 全くあてはまらない

### ③ 2017年度 小学校 学校自己評価アンケート用紙

= 小学校 学校自己評価アンケート参照 =

### ④ 2017年度 小学校 学校自己評価アンケート中間報告

= 小学校 学校自己評価の中間報告参照 =

### ⑤ 評価の概要

昨年度と比べると、A+Bで10%以上の項目は12項目あり、逆に、A+Bで下がった項目は2項目となっている。1学期終了時点での評価ということもあり、項目によっては取り組み半ばや、まだ実施されていない項目も考えられる。以下、特にポイントが顕著に高くなった項目をあげておきたい。

#### 【重点目標】

「主体的な学び」をテーマに、アクティブラーニングを実施してきた。

・今年度より「コンピュータ」の授業の教科名を「情報」と改め、パソコンの操作の習得

に加え、考える力や発信する力を伸ばすべく、プログラミング学習をスタートさせた。

- ・探究型の授業形態が定着しつつある。

具体的には、

本時のめあてを確認し、見当をつけて自分の考え方を整理する。考えを発表し合うことにより、さらに、考えを深めたり新たな発見を得たりする学習を積み重ねてきた。このような探究型の学習を進める中で、児童相互に認め合う仲間意識の高まりも見られる。

- ・2学期から、最新の機器が整った新校舎での学習が始まったので、効果的に ICT 機器を利用していきたい。

**人権教育** 19 児童支援対策 複数教員により支援を要する児童への適切な指導を行っている。

週1回、特別支援教育（人権）指導者とコーディネーターが対策や反省など話し合いを実施している。また、スクールカウンセラーの先生に相談や助言をいただいている。

**国際教育** 28 国際理解の推進 他国への歴史の理解、異文化交流等、国際理解に対する教育活動を行っている。特に、英語学習では学年に応じた課題設定と効果的な学習を行うための授業形態

#### 1 各授業における学習のねらい

ティーム・ティーチング

ネイティブの教員と日本人教員によるティーム・ティーチングの授業で、語彙や会話表現の学習を行う。ペアワークやグループワークを通して子ども同士が学び合い、コミュニケーションの態度を育成する。

他に、ハーフクラス英会話・20分間の英語定着度チェック・文法と読解の授業等

#### 2 英語の学習活動

英語劇（3年生・学習発表会）・英語暗唱大会（4～6年生 各学年代表者）

イングリッシュ・キャンプ（6年生 異文化理解や国際交流）

#### 3 中学英語へのブリッジ

6年生 英検5級以上の取得を目標

#### 4 オーストラリア姉妹校との交流

6年生 オーストラリアメルボルンにあるラザーホールの6年生とテレビ会議やカード交換等による交流（信愛生は英語・ラザーホール生は日本語）

**私学の独自性** 3 宗教教育 宗教に基づいた教育に対する児童・保護者の理解がある。

カトリック精神に基づき、聖書の言葉を日々の生活の指針とし、感謝を忘れず自分も他者も大切にすることを目的とする。

朝礼・終礼時の祈りを通し、祈る習慣を養う。自分を振り返る機会をつくる。生きる喜び・生きる力をつける。毎月、聖書の中の「み言葉」を覚え、日常生活での具体的な実践へと高めていく。

= 主な宗教行事 =

5月 マリア様をたたえる集い

11月 追悼式

12月 クリスマスを祝う会

3月 卒業感謝ミサ

逆に、ポイントが低くなった項目は、

**教育研修** 39 校外研修 教員が校外研修に参加できる体制が整っている。

40 研修成果の共有 研修、研究に参加した成果を教員間で共有する体制がある。

昨年度は全職員が年に1回研究授業を行い、反省会を行った。また、研修会等に参加した成果を全職員で共有するために報告会を定期的に行った。しかし、今年度は2学期から新校舎での生活がスタートしたため、1学期は綿密な引越しの計画や準備の打ち合わせ中心になった。

次に、評価のA+Bの合計が70%未満の項目に対しては、評価の向上に努めていきたい。

**教員間連携** 7 会議の有効性 内容の精選と検討事項を事前に伝え、効率よく行っている。

議案の提示を早い目に教員達に配布するか、知らせておく。会議開始時点では議案の中身が共通理解できているようにする。確認事項は、職員朝礼時にする等の工夫をする。

**開かれた学校づくり** 13 地域交流 地域住民との交流が行われ、地域行事への参加に積極的である。

現交流は、児童合唱団の老人ホーム慰問やクリスマスイベントが中心であるが、バザーを始め、運動会や学習発表会への招待など、信愛の様子をもっと広く発信していく。

**人権教育** 16 研究体制 人権教育に関する課題、指導方法を研究する体制がある。

研修会へ参加した教員は、報告や確認事項等全員で分かち合い、共有する時間をもつ。

- \* 平成 30 年 4 月より男女共学がスタートする。しかし、カトリック精神に基づいて、豊かな心を養うと共に物事を正しく判断し、進んで国際社会に奉仕できる健康な人を育成することは変わらず、信愛のめざす人間像である。